

【多文化共生2】

パラグアイで出会ったアミーゴと受け継いだ 友情の大豆

【実践者】

氏名	早川 千恵子	学校名	長野市立浅川小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	1年1組（22名）2組（23名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年8月～12月（16+10時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

生活科・道徳・特別活動・健康教育（食育指導）・人権教育

02 単元名と単元目標

単元名：パラグアイで出会ったアミーゴと受け継いだ大豆

単元目標：パラグアイで暮らす日本とかかわりのある人との出会いを通して、それぞれの願いや思いを知り、自分たちにできることを考える。

関連する学習指導要領上の目標：

○生活科：具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(2)身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

(3)身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

○学級活動

(2)イ：よりよい人間関係の形成 エ：食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

○人権的な視点

・価値的・態度的側面…相手や他社を思う気持ちを受けとめようとする。

自分の生活につなげて考えようとする。

・技能的側面…相手の立場になって考えることができる。

03 単元の評価規準

① 知識・技能	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。
---------	---

② 思考・判断・表現	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。

04 単元設定の理由・単元の意義

4月に長野市内の十数園から入学してきた子どもたち。いろいろなことに興味をもち、学ぶ気持ちを強くもっている。入学後から、運動会や生活科の活動場面など学年合同で取り組んでおり、畑の活動では、ジャンボカボチャやサツマイモを学年で一緒に育てている。2学期には、音楽会や浅川チャレンジ(遠足)などともに活動する場面があるので、2学期当初に学年集会を行い、クラスのお友だちから学年のお友だちとも仲良くなろうということで活動し始めている。毎日の給食ではよく食べ、1学期に栄養教諭と一緒に給食センターの様子や作る人の思いを知り、食べることの大切さを学んでいる。

そんな中で、1学期末に出題された毎日の給食クイズで大豆の国内自給率が6%であることを知り、私たちの生活に欠かせない大豆製品についてもっと知りたいと課題意識をもつことができた。長野県では例年2年生になると多くの学校で大豆を育てており、本校では収穫後に地域ボランティアのみなさんとみそづくりなどにも挑戦していて、子どもたちの身近な食品として大豆が位置付いている。

このように、子どもたちの意識と生活科を中心とした学習を展開していく中で、担任がパラグアイ研修で気づいた地球の反対側で暮らす人々が離れた地で日本を思い、それらを知ることを通して、多様な考えがあることを尊重し、今度自分たちに何ができるのかを生活の中から見つけ出していく一歩になればと願い、この単元を設定した。

05 単元計画（全16時間＋番外編10時間） ★オンライン配信

	小単元名	学習のねらい	学習活動
1 2 ★	友だちについて考えよう。	「ひみつのともだち」に取り組むことで、クラスの友だちについて考えるとともに、パラグアイ「友情の日」について知る。	・学年集会で二学期の見通しをもち、学年で協力することが必要であると感じた後、「ひみつのともだち」のやり方を知り、クラスごとに挑戦する。
	資料・教材など ひみつのともだちカード・ニャンドゥティーと担任のカード 公開：参会者4名（オンライン3名、MC1名）※お試しオンラインで見通しをもつ		
3 4 ★	パラグアイについて知ろう。	パラグアイと日本をいろいろな角度から比較しながら、日本やパラグアイについて考える。	・参観日に合わせて、パラグアイについて紹介する。(位置、人口、産業、学校生活、食事、日系など) ・両国の人口ピラミッド図をタブレットの手持ち資料として気づいたことを話し合う。 ・日本でよく見る世界地図とパラグアイで購入した世界地図を比べる。 ・授業最後に「パラグアイで出会ったアミーゴ」としてオンライン参観者を紹介する。
	資料・教材など：パラグアイ紹介パワポ、ニャンドゥティー、国旗、パラグアイのお菓子や醤油、先住民の笛・弓矢・置物、ミドリ工房作品、アオポイ着用、タブレット、テレビ		

	公開：参観者 56 名（保護者 40 名、オンライン 14 名、MC 1 名）※参観日の保護者に加え、他県教諭が夏休み中だったこともあり、多数の先生方に参観していただくことができた		
5 6 ★	大豆の自給率から身近な食べ物について考えよう。	大豆の自給率から給食や身近な食べ物について考えよう。 ※長野市第四給食センター栄養教諭豊田真奈美先生とのコラボ	・身近な大豆食品や給食の大豆メニューを確認する。 ・給食だよりでの大豆クイズを想起し、6%がどのくらいなのかを実際の大豆で確認する。 ・その他の食品の国内自給率について考え、輸入しないと多くの食べ物が手に入らない状況であることを可視化して示す。 ・給食では栄養教諭が地産地消に取り組んでいる理由を考え、栄養教諭の思いを知る。 ・地産地消を目指すパラグアイの宇宙とつながる農業を紹介する。 ・イグアス日本語学校大山しおん教頭先生からパラグアイの食事について話を聞く。
	資料・教材など：大豆実物、大豆食品や自給率で作った給食を示した資料、パワーポイント、タブレット、テレビ、配信用の視聴覚機器（市教委より借用）、板書模造紙、アオポイ 公開：参観者 15 名（給食ボランティア 1 名、市民新聞記者 1 名、大学院生 1 名、オンライン 9 名、MC 1 名）		
7 8 ★	パラグアイで出会ったアミーゴ①	パラグアイ人のカルロス ・パラグアイ ・パラグアイ在住 ・日本語が話せる ・パラグアイについて聞いてみたいことをペアと考えて直接質問してみる	・写真からカルロスについて予想する。 ・スペイン語での自己紹介から、日本人ではないと予想後に日本語での自己紹介でオンライン登場してもらう。 ・パラグアイについて、カルロスから聞く。 ・カルロスに子どもたちから質問する。 ・スペイン語の歌を教わる。
	資料・教材など：パワーポイント、今までの授業の掲示物、配信用の視聴覚機器（市教委より借用）、テレビ、板書模造紙など 公開：参観者 10 名（オンライン 7 名、MC 1 名）		
9 10 ★	パラグアイで出会ったアミーゴ②	立川さん ・新潟県出身 ・日本人 ・パラグアイで MIDORI 工房を営む ・スペイン語を話せる ・いろいろな国の人と働くときに大切にしていることを聞いてみる	・二学期始業式の校長講話から外国で暮らす日本人について考える。 ・写真から立川さんについて予想する。 ・前時のカルロスや立川さんから、日本人について考える。 ・立川さんにオンラインで登場していただき、パラグアイでの活動いろいろな国の人と働くときに大切にしていることなど直接お話を聞く。
	資料・教材など：パワーポイント、今までの授業の掲示物、ミドリ工房の作品、アオポイ、配信用の視聴覚機器（市教委より借用）、テレビ、板書模造紙など 公開：参観者 16 名（オンライン 9 名、市立長野中学生 3 名、大学院生 1 名、MC 1 名）		
11 ★	パラグアイで出会ったアミーゴ③	JICA パラグアイ平井班長 通訳エリカさん	・前時の「日本人」について考えたことを確認する。 ・二人の写真から気づいたことを話す。

		日系二世の思いを知る ・パラグアイ人 ・日系人 ・国際人 小山アガタ琴美さんにインタビュー	・日系二世の二人がパラグアイ人であることを伝え、映像からエリカさんの思いを知る。 ・それぞれの立場によって思いが異なり、その思いを尊重することが大切であると感じる。
	資料・教材など：写真、エリカさんインタビュー映像①②③、配信用視聴覚機器、板書用模造紙 公開：参観者 13 名（ひかり子ども園元園長 1 名、オンライン 11 名、MC 1 名）		
12	給食で使う大豆を選別してみよう。	給食で提供する大豆の選別をやる。 栄養教諭豊田真奈美先生とのコラボ	・形や汚れなど確認して選別する。 ・給食で紹介してもらうメッセージを考える。 ・12 月の献立で市内各校に発信する。
	資料・教材など：給食用の大豆、トレイ、大豆選別の基準		
13 本時 ★	パラグアイで出会ったアミーゴ④ ※長野市指定 北部支会人権教育公開授業	大西ホルヘさん 福岡日登美さん ・日系二世 ・パラグアイイグアス出身 日本とのつながりを大切にする思いを知り、今後自分たちに何ができるのかを生活の中から見つけ出す一歩とする	・今までに出会ったアミーゴを想起する。 ・日系二世のホルヘさんの紹介をする。 ・遺伝子組み換えでない大豆を作る理由を予想する。 ・ホルヘさんの思いを映像で確認する。 ・パラグアイ従業員の子どものために、スペイン語学校を作ったことを伝える。 ・今までのアミーゴとつないでくれたひとみさんの思いを聞く。 ・ホルヘさんから「友情の大豆」を受け継ぐ。 ・ホルヘさんやひとみさんの思いを聞いて、自分の生活で役立てられそうなことについて考える。
	資料・教材など：「友情の大豆」、ホルヘさんインタビュー映像、配信用視聴覚機器 公開：参観者 名（参観 35 名、市教委 1 名、オンライン 20 名、MC 1 名、オンラインでの研究会参加者 4 名）		
14	ホルヘさんの大豆を受け継ごう。	ホルヘさんの大豆栽培の様子を知り、「友情の大豆」について考える。	・ホルヘさんの農場の様子を知る。 ・大豆栽培の苦勞について考える。 ・大豆栽培に興味をもつ。
	資料・教材など：友情の大豆、ホルヘさんの大豆資料、大豆に関する本		
15	「友情の大豆」について今後どんなことができそうかを考えよう。	大豆をどうしたいのかを考える。 ・育てたい ・食べてみたい ・みんなに分けたい	・大豆の育て方を知りたい。 ・大豆を育てている人に聞いてみたい。 ・大豆の本で調べたい。 ・たくさんあるから学校の畑だけでは余るかも。
	資料・教材など：友情の大豆、大豆に関する本		
16	大豆の育て方を調べよう。	大豆の育て方を調べ、2 年生や市内産地の学校での取り組みと出会う。	・2 年生が育てていることを確認する。 ・市内の学校で大豆栽培が盛んな地域があることを知る。（ジャンボカボチャを育てる中条地区など西山地区）

		日本の大豆とパラグアイの大豆を比較してみる。	・聞いてみたいことを考える。
	資料・教材など：友情の大豆、日本の大豆（ナカセンナリ）、大豆に関する本、市内の大豆生産にかかわる資料など		
※3学期以降は、ホルヘさんから受け継いだ「友情の大豆」について、大豆に関わる活動を中心に展開する予定。			
番外編 10時間	音楽会でパラグアイを紹介しよう。	「かえるのがっしょう」の鍵盤演奏で、世界の地域の特色あるリズムを取り入れながらいろいろな国を冒険する。 カルロス、立川さんと動画メッセージで交流する。	・お囃子、ジャズ、サンバなど世界の地域のリズムに合わせて鍵盤を演奏する。 ・リズムを紹介するセリフを自分たちで考え、自分たちの言葉で伝える。 ・カルロスから教わった「Hola hola paravos y para mi」を歌う。歌詞の意味は、イグアス日本語学校三田村校長先生に教えてもらう。 ・「地球のみんなが国際人」という子どもたちが考え出した言葉を最後のセリフで伝える。 ・カルロスや立川さんからのメッセージを子どもたちに伝え、相手意識をもち、思いを届けるステージを作る。
	資料・教材など 鍵盤ハーモニカ、カルロスの歌動画、電子オルガン		

06 本時の展開（13 時間目）

本時のねらい：

日本とつながりのあるパラグアイの人々との交流から、人とつながることを楽しみ、広い世界に関心が高まってきた子どもたちが、大西ホルヘさんの大豆づくりのお話から、ホルヘさんが日本や周りの人たちとのつながりを大切にする思いを感じとり、つながりを広げるために自分ができそうなことについて考える。

人権的な視点

- ・知識的側面…（本時に含まない）
- ・価値的・態度的側面…相手や他社を思う気持ちを受けとめようとする。★1
自分の生活につなげて考えようとする。★2
- ・技能的側面…相手の立場になって考えることができる。★3

指導上の留意点

- ・どの子にも画面が見えるように配慮する。
- ・意見を伝えあう場面では、ペアを確認しながら話し合えるようにする。
- ・遺伝子組み換え大豆についての説明は NHK 動画を活用し、日本の大豆は非遺伝子組み換えであると確認する。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入（8分）	1 今までに出会ったアミーゴと日本のつながりをふり返る。 ○パラグアイで出会ったアミーゴから、それぞれが考える○○人を確認しよう。	・パワーポイントから今までに出会ったアミーゴ

展開 (34分)	・大山しおん教頭先生(日系人) ・カルロス(パラグアイ人) ・立川さん(パラグアイ在住の日本人) ・平井さん(日系二世パラグアイ人) ・エリカさん(日系二世国際人) ・琴美さん(日本人) 2 大西ホルヘさんがどんな人か考える。 ○写真を見て、どんな人か予想してみよう。 ・どこに住んでいるのかな。 ・どんな言葉をしゃべるのかな。 ・平井さんとちょっと似ているかも。 ・日系の人かな。 3 ホルヘさんのことについて紹介を聞く。 ○ホルヘさんについて紹介します。 ・ホルヘさんは日系人なんだね。 ・大豆をどのくらい作っているのかな。 ・農協ってパラグアイにもあるんだ。 4 ホルヘさんが遺伝子組み換えではない大豆をなぜ作っているのかを考える。★3 ホルヘさんは、なぜ遺伝子組み換えではない大豆を作るのだろう。 ○ペアと一緒に考えてみよう。 ・大変なのになんで作るのかな。 ・日本と関係があるのかな。 ・日本に送っているのかな。 5 ホルヘさんの VTR を視聴し、ホルヘさんの思いを知る。 VTR①★1 ○ホルヘさんの話を聞いてみよう。 ・ふるさとの日本に大豆を送っていたんだね。 ・確かに日本の国内自給率はすごく低かった。 ・東日本大震災でも大豆が助けてくれていたんだね。 ・遠く離れた場所だけど、日本とつながっているんだね。 ・ホルヘさんは、日本のことだけでなく、パラグアイの人や出会った人のことを考えている。 6 ホルヘさんの考えや今まで出会ったアミーゴを思い返し、自分にできそうなことことを考える。★2 ○ホルヘさんや今までに出会ったアミーゴを思い出し、同じ国際人としてできそうなことややってみたいことを考えてみよう。 ・いろいろな国の人ともっとつながりたい。 ・パラグアイや他の国について知りたい。 ・ホルヘさんのことを家族に伝えたい。	の写真から想起できるようにする。 ・前時に発言があった「地球のみんなが国際人」を確認する。 ・担任と一緒に写真からホルヘさんを見せる。 ☆大西ホルヘさん ・日系二世 ・パラグアイ在住 ・イグアス農協理事長 ・大豆(遺伝子組み換え)の大農家 ・遺伝子組み換え大豆について簡単な説明(VTR)をする。 ・遺伝子組み換えではない大豆を育てるのはとても手間がかかり、日本に輸出できないことを伝える。 ・両親のふるさとである日本とのつながりを今でも大切にしている。 ・東日本大震災の時に大豆を日本に送り、豆腐を配った。 ・日本の食糧危機に備えている点から栄養教諭と学んだ自給率の資料を示す。 ・ホルヘさんがパラグアイ従業員の子どもたちのために私設のスペイン語学校を設立したことも伝える。 ・今までの掲示物やパワーポイント資料などを見ながら、ペアで意見を交換できるようにする。
---------------------	--	--

	・ 周りにいるみんなのことを大切にしたい。 ホルへさんの思いを聞き、つながりを広げるために自分ができそうなことを考えている。 7 アミーゴとつなげてくれたひとみさんと出会う。 ○ひとみさんの紹介と感想を聞こう。 ・ 今までのアミーゴを先生に紹介してくれた人なんだね。 ・ ひとみさんはどんなつながりを大切にしているのかな。	
まとめ (3分)	8 ひとみさんより、ホルへさんの思いのこもった「友情の大豆」を受け継ぐ。 ○ひとみさんより、ホルへさんの「友情の大豆」を受け継ごう。 ・ ホルへさんの大豆を育ててみたい。 ・ 大豆を育てて食べてみたい。 ・ 二年生が育てているから教えてもらおう。	☆福岡ひとみさん ・ 日系二世パラグアイ人 ・ JICA パラグアイで勤務、研修の案内人 ・ 日本で暮らしたことがある。 ・ 「友情の大豆」を紹介する。 ・ 今後どんなことがやりたいのかを語ることができるようにする。

使用する資料・教材：

映像（大西ホルへさん）、福岡ひとみさん（生出演）、授業用パワーポイント、テレビ、授業配信用機材（長野市教委より借用）、今までの授業で活用した板書用模造紙、パラグアイグッズ（パラサント工芸品、先住民工芸品、テレレ、ニヤンドゥティー、アオポイ、世界地図、パラグアイ地図）、友情の大豆、本時板書用模造紙

07 板書計画

学年での実施ということで、S Tの2組担任に分担。パラグアイのアミーゴからのメッセージに対して子どもたちがつぶやいたことを模造紙へ書き込む。授業後には廊下に掲示。（毎時間実施）

「ホルへさんが遺伝子組み換えではない大豆を作っているのはなぜ？」（問い）

- ① 日本とのつながりのため
- ② 日本の食糧危機にそなえて

「ひとみさんが大切にしていることは？」

昔からの友だち、今の友だちも大切にすること

08 評価規準に基づく本時の評価方法 ※人権教育の観点から

- ・ 価値的・態度的側面…相手や他社を思う気持ちを受けとめようとする。
自分の生活につなげて考えようとする。
- ・ 技能的側面…相手の立場になって考えることができる。

09 学校外との連携（※該当のある場合）

- ・ イグアス日本語学校：大山しおん教頭先生
- ・ パラグアイミライ塾：カルロス（元横国大学院生）
- ・ パラグアイ MIDORI 工房：立川巧雪さん
- ・ パラグアイフェスティバル：小山アガタ琴美さん（元イグアス日本語学校教員）

- ・ JICA パラグアイ：福岡日登美さん
- ・ パラグアイ通訳：菊池エリカさん
- ・ 長野市第四給食センター栄養教諭：豊田真奈美先生
- ・ 長野市メディアコーディネータ(MC)による zoom 配信
- ・ 長野市教育委員会より zoom 配信機材の借用

10 学びの軌跡（※児童生徒の発言の変化など）

- ・ 地球のみんなが国際人（エリカさんの言葉を受けて）
- ・ 日本は年上の人が多いが、パラグアイは若い人が多いのはなぜ（出生率の比較）
- ・ 大豆など飼料が輸入されないと、肉や卵が食べられなくなってしまう。
- ・ 日本の国内自給率が低い中で、給食の先生はがんばって地産地消(国産)のものを使っている。
- ・ もしこんな大雨が続いたら、お米も育たなくなってしまうのではないか。
- ・ いろいろな国の人と一緒に働くときに大切にしていること（目を見てあいさつすること、きちんと謝ること）は日本も外国も同じ（立川さん）

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

日本と地球の反対側に位置するパラグアイで、日本のことをとても大事に思って暮らしている人々との出会いから、世界の人とつながり、互いを理解し合い、ともに生きることの大切さを感じてほしいと強く願った。

12 苦労した点

- ・ 小学1年生の子どもたちの意識を考え、自分たちの生活に関連した内容を数多くあった研修内容の中から見つけ出して、教材化していくこと。
- ・ ホルへさんの大豆を生活科2年の大豆作りに出会った人やパラグアイ（イグアス）の特色を紐づけていく過程。
- ・ 教員のみならず、多くの人に伝えたいと願い、毎回授業を配信したこと。配信方法の工夫。
- ・ 学年実施での役割分担や海外研修を体験していない校内職員や参観者にこの単元展開について理解してもらうこと。

13 改善点

- ・ 2学期開始後の8月末からの実践は有効だったが、本校職員への研修報告が授業公開前だったので、全職員への共通理解が遅くなってしまった。
- ・ 本時については、人権教育の観点から研究会を開催したが、取り扱った内容についての話題に広がるところが多く出されていたので、研究会の進行についても伝達の必要があった。
- ・ zoom 参観者の研究会も同時並行していたので、研究会最後に発表してもらうとより効果的だった。

14 成果が出た点

- ・ 学年全体で、対話を中心に据え、考えを深め合う姿が自然にできるようになった。
- ・ 授業公開を長野市人権教育研究協議会とタイアップしたことで、より多くの人にパラグアイ研修での学びを知ってもらう機会となった。

- ・「授業 zoomer」として毎時間授業配信公開は、延べ 200 名以上の大勢の人に発信することができた。県内外の教職員だけでなく、授業展開で興味関心をもったいろいろな職種の人や学生が世界中から参観し、それぞれの立場から感じたことを参観後に伝えてくれた。
- ・地域の新聞社の取材があり、学校関係者以外にも発信することができた。
- ・給食センターの栄養教諭とメディアコーディネータによって、それぞれの立場からも市内各校への発信があり、授業者以外の視点からもこの単元を広げることや、また授業者としてふり返る機会にもなった。

15 自由記述

パラグアイ研修が多岐にわたる分野にアプローチした大変充実した内容だったので、小学 1 年生の子どもたちにどの部分を取り入れることができるだろうかと研修中からずっと悩み考えていたが、ホルヘさんの日本を大切に思う気持ちに出会い、たくさんの人との出会いを通して自分が感じたことを紹介しながら一緒に考えていこうと願い、今回の大単元展開が出来上がった。音楽会では、パラグアイにかかわる発表へとつながるなど、現在も子どもたちの思いや学びたい気持ちが原動力となり、子どもたちの発言やアイデアから、さらに新しい展開が切り開かれており、まるで生き物のような学びが続いている。

本単元の取り組みについては、「授業 zoomer」として公開授業までの全授業を配信したことも大きな成果があったと考える。地球の反対側のパラグアイのामीゴたちと会話を交わしながら交流することを通して、子どもたちが自分事として考え、よりパラグアイにより興味関心をもって授業展開をすることにつながった。加えて、県内外の教職員だけでなく、学生や他業種の興味をもった大勢の人たちが国内のみならず、パラグアイ、アジア、オーストラリア、ヨーロッパと世界中から参観して下さったことで、新たな視点でのレスポンスがあり、それらを取り入れながら授業展開をブラッシュアップすることにつながった。

また、この単元に一緒に取り組んでいた隣のクラスの担任はお便りで活動の様子を発信、教頭先生は日報や授業研究会を通して、そして校長先生は学校 HP など職員全体で取り組みを広げてくださっていた。さらには、ともに授業を組み立てた栄養教諭やメディアコーディネータも本単元での活動をそれぞれの立場から市内各校に配信して下さっており、新聞掲載や zoom 配信も含めて本単元にかかわった大勢の方が感じたことを独自の目線で広げて下さっていることに大変感銘を受けた。同様に、今回私が JICA 教師海外研修に挑戦したことで、自分にもできることをやってみたいと資格を取る人や自身の人生を見つめ直して新たな一歩踏み出す人など、教員だけでなく、参観して下さったたくさんの人の人生にも多大な影響を与えていることを感じた。授業のオンライン配信もあったので、子どもだけでなく、私たち大人世代にもこの研修の価値が伝わったのではないかとされる。

このように進化しながら学びが展開できるのは、パラグアイ研修を通じて人生でかけがえのない素晴らしい機会を与えていただけたこと、そしてそこで出会った人たちの「願い」や「思い」をより多くの人に伝えたいという強い願いを授業者として抱いたことが、小学 1 年生の子どもたちや関わって下さったたくさんの人たちにも伝わったのではないかと考えられる。今回の研修で得ることのできた「生きた教材」を、これからも出会うたくさんの子どものたちとその時々に変えながら展開し、ともに考え続けていきたいと考える。